

## 平成30年度 西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)					平均無解答率(%)				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
3年	学校	90	76	61	65	48	65	3.7	1.8	2.7	9.6	4.1
	大阪市	—	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9	5.9
4月17日	全国	—	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0

### 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語	国語	社会	数学	理科	英語
3年	学校	92	52.8	48.0	57.3	52.8	54.1	15.4	3.9	10.2	7.8	4.3
	大阪市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9月4日	大阪府	—	53.0	49.5	58.9	58.0	58.5	16.0	4.5	10.3	7.3	3.6

# 平成30年度 西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 調査結果から

### 【成果と課題】

国語…合計点数の平均点および度数分布、各設問ごとの正答率、無解答率のいずれも、大阪府の平均に近いものであった。その中で、本校が大阪府の平均を下回る設問に着目すると、①後半の問題、②難易度の高い文章（論説文）の読解、③文法、④古典であることがわかった。反面、記述問題の無回答率および正答率、漢字の読み書きに関してはおむね本校が大阪府平均を上回っていた。抽象的な概念の理解、文章を素早く読み要点をつかむ力に課題があると言える。年度当初から取り組んできた、漢字・語句の知識、記述問題への意欲については成果が見られた。

社会…成果として、昨年度の一年間の学習を通じて、都道府県名、県庁所在地名が答えることができるようテストを何度も繰り返したため、学習の定着が見られ大阪府平均をこえることができた。普段の授業からグラフの読み取りや小テストを実施することで、観点別での資料活用の技能と知識・理解が大阪府平均をこえることができ、無回答率が低かったことも大きな要因であると考えられる。今後の課題として、思考・判断・表現の分野を日頃から対話中心には取り入れてきたが、より生徒同士での対話する機会を設け思考力を深めるようにしていきたい。

数学…記述式分野で大阪府平均をこえた結果は、日頃の授業で力点をおいて授業展開をおこなってきた成果であると考えられる。GKP（学力向上プログラム）テストなどの取り組みも行っているが、数と式分野でのポイントが向上するよう更に反復練習の機会を設けながら取り組む必要がある。

理科…無解答率は低く、学習領域別では、地学的分野の知識定着力は高い結果であった。一方、観点別では、科学的思考分野が弱く、記述式の形式での誤答・無解答率が高かった。

英語…大阪府と比較して、平均点が4.4ポイント下回る結果であった。全体の配点を見通す中では、「聞くこと」では-0.5ポイントと他の領域と比較すると、まだ理解ができていたようである。「読むこと」、「書くこと」は点数が結果として余りふるわなかつた。やはり「読むこと」が重要であり、「読むこと」の力を高めることで、「書くこと」も伸びてくると考えられるので、「読むこと」に力点をより一層入れていく必要性がある。

### 【今後に向けて】

国語…文法については3年間を見通して隨時復習をすることが肝要であると思われる。単に技術的な言語の操作にとどまらず、論理的な言語理解につなげていきたい。また、読解力については、授業においても精読だけでなく、速読、多読を取り入れ、多彩な内容の文章を読ませていきたい。漢字・語句や文章表現については、これまでの取り組みの効果が表れており、継続していきたい。

社会…成果と課題を踏まえたうえで、思考力をより深める授業展開を工夫していく。そのためにも中学校での学習内容をしっかりと振り返り、基礎・基本となる事項が定着するように取り組む。また、アンケート結果からもわかるように、生徒たち自身が対話として捉えることができる授業の改善を図っていく。

数学…苦手な分野を減らしていく努力を培っていくためにも、日常での授業時間内で工夫しながらも復習プリントの更なる充実を図りたい。また、選択式問題でのアプローチ方法等の細やかな指導を取り入れていく。

理科…知識の定着を図るためにも、授業中に単元ごとの小テストの回数を増やし、文章記述の練習の回数も増やして、改善を図っていきたい。

英語…「読むこと」に力を入れて学習を進めるために、朝学習で週一回行っている読み物教材の回数を増やしたり、授業では「読むこと」を意識した発問の仕方や、教材の準備を要する。「書くこと」は、今後も継続して、課題を増やしたり、できるだけ書かせる内容を多くしたりする工夫を行っていく。